



ALPS

CAREER

>>> 仕事

私のキャリアデザイン >>> 第7回

警察官を経て

65歳で叶えた教師の夢

私のような者のところに執筆依頼が無い
込んでくるとは、夢にも思いませんでした。
私もまだまだ志半ばの身ではありますが、
読者の方に何か人生のヒントになるような
ことを感じてもらえればという思いでペ
ンを執りました。「こんなもん何の役にも立て
へんわ」とお叱りの無きようお願いします。

中学の恩師の影響で、
教師を目指す

大阪府池田市にある中学校の校庭で全校
生徒がラジオ体操をしています。その時で
す。「こらッ！」という怒鳴り声とともに足音
が私に近づいてきたと思ったら、いきなり
首根っこをつかまれ「こっちへ来い」と
校舎の隅へ連れていかれました。保健体育の
M先生でした。

M先生は私に対して「お前のダラダラと
した体操はなんや。お前は体育委員であり、
クラスでも中心的存在や。そんなお前が
あんなダラダラした体操をしたらみんなに
示しがつかん。お前やったら分かるやろ」

と叱られました。何か自分のことを認めて
くれたような気がして、涙があふれ出たこと
を覚えています。その時、私は決めました。

「M先生のような保健体育の教師になろ
う！」と。昭和45年の出来事でした。まさに
昭和、単純ですね。

その後、高校受験に失敗し、私立高校に
入学しましたが、保健体育の教師になると
いう夢は持ち続け、運動（硬式野球）に勉強
（？）にと励んでいました。

高校3年の時、教育実習生として、日本
体育大学のS先輩が来られました。中学時代
の恩師M先生も日本体育大学の出身でした。
私は、教育実習中のS先輩に毎日、大学の
ことや入試のことなど色々と尋ねていました。
教育実習の終了が迫ったころ、S先輩に
「レスリングをする気はあるか？ あるなら、
ウチの大学に来ないか」と言われました。
大学からレスリングを始めたというS先輩
の話聞き、野球に体格的な限界を感じて
いた私は、体重制限のあるレスリングを
してみたいという気持ちがわいてきました。



愛媛県立南宇和高等学校
保健体育講師
水林 義尚

[みずばやし・よしひさ] 1957年、大
阪府池田市出身。日本体育大学卒業後、
大阪府警で巡査を拝命。定年退職後、
大阪市役所で再任用職員として勤務。
2022年、65歳の時に、新任教師とし
て愛媛県立川之石高等学校に赴任。その
後、2024年より現職。

大学は何とか卒業したもの、
8年で！

昭和50年4月、無事、あこがれの日本体育
大学に入学することができました。当時の
レスリング部は、キャプテンが現役の世界
チャンピオンのT先輩で、後にモントリオ
ール五輪で金メダリストにもなられた方
でした。そんなハイレベルな環境の中、大学
から始めた私にとって、レスリングはとても
厳しいものでした。

それでも、全日本学生レスリング選手権
大会では3年生の時から2年続けてベスト
8まで勝ち進み、全日本レスリング選手権
大会にも出場できたことは、とても良い思
い出です。あとは、教員採用試験に合格し
卒業するだけの予定でしたが、大阪で受験
した教員採用試験に最終まで進みながら、
合格を手にすることはできませんでした。

その時、「教員採用試験は、既卒より新卒
の方が合格しやすいぞ」と友達の言うことを
真に受けて、卒業せずに、1年間のつもり



で留年しました。ところが、アルバイトに明け暮れ、結局、ダラダラと8年が過ぎてしまいました。卒業はできたものの、教職の必須科目を1科目残してしまい、教員免許は取得できませんでした。

教師の夢をあきらめ、 思いもよらぬ職業へ

就職活動をしていなかったため、卒業後はアルバイトをしながら途方に暮れていたところ、父から「警察官採用試験を受けてみて」と言われ、親孝行のつもりで受験し、27歳で大阪府警の巡査を拝命しました。

当時の警察官の採用年齢は27歳までで、警察学校に入った時、私は最年長でした。警察官時代は、体育会系の性格が合ったのか、交番勤務や駐在所勤務等を経験し、最後は警部補という現場監督のような立場で仕事をして、大変やり甲斐のある有意義な警察官人生を送ることができました。

大阪府警を定年退職し、 再任用職員に。その後は、終活？

60歳で大阪府警を定年退職してからは、大阪市役所の再任用職員となり、繁華街で客引きを取り締まる「客引き指導員」として勤務しました。

その仕事も3年間で終わり、「さて、次は何の仕事でしょうか？」と、「終活」の意味でもこれまでの人生を振り返り、何かやり残したことは無いか考えたところ「そうや、

これや。決めたぞ」と思ったのが、中学生の時から夢、保健体育の教師！

大学卒業から37年が経過し、その間、教育職員免許法も数回改正され、どの教科を修得すればよいのか分からず、教育委員会等に相談したところ、私の場合、20教科必修しなければならぬことが判明しました。単位を取るため、大阪にある公立小中学校の教育指導助員（何らかの障がいや介助を必要とする児童生徒のサポート）で実務経験を積みながら、通信制大学で学ぶことにしました。それから2年後、無事、教員免許を取得することができました。自業自得だったとはいえ、やはり取れる時期に取るのが一番楽だと痛感しました。

65歳にして初めて教壇に立つ

65歳の新任の保健体育教師を必要としてくれる学校があるのか心配でしたが、とりあえず、神にもすがる思いで、大阪府、兵庫県、それに妻の出身地である愛媛県教育委員会に講師登録を済ませ、連絡を待ちました。しばらくして愛媛県教育委員会から電話があり、講師として採用が決まりました。初めて教壇に立った時は、40年近くの日を経てやっと夢が叶ったという思いから毎日が楽しくて仕方ありませんでした。

私は、保健の授業は「生きていくための授業」だと思っています。教科書には飲酒・喫煙・違法薬物等の単元もあります。警察官

時代、少年犯罪の現場を数多く見てきた経験をもとに、生徒たちにはそのような犯罪に関わらないよう教えています。

また、野球部の監督として生徒の指導にも当たっていますが、彼らの無限の可能性をどう引き出すかが一番の仕事です。野球の技術ももちろんですが、生徒たちには、挨拶ができる、グラウンド整備等の雑用を自ら進んでやる人間を目指して欲しいと願っています。愛媛県の最南端の高校で、3年生が引退した今、部員は6名です。来年の新入部員を期待し、毎日練習に励んでいます。甲子園出場を目指して！

紆余曲折があったから出会えた 人も、経験も、すべて財産

私は人生で数多くの失敗をし、両親や家族に迷惑をかけてきました。しかし、失敗したからこそ出会えた人、職業等の経験といった財産が山ほどあります。私は、自分のことを反面教師そのものだと思っています。私のような人生は歩まないように生徒には伝えていますが、同時に、失敗しても取り返すチャンスはいくらでもあると伝えていきます。それに「最後まで諦めるな！」とも。私は今、若いころの落とし物や忘れ物を探し、それを見つけて喜んだり悲しんだり、挑戦したりしているのだと思います。皆さんも、若いころの落とし物や忘れ物を探してみませんか？そこに新たな生きがいが見つかるかもしれませんよ。